法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

【図書紹介】『一八歳で学ぶ哲学的リアル：常識の解剖学』大橋基著（ミネルヴァ書房、二〇一七年）

KIJIMA, Taizo / 木島, 泰三

(出版者 / Publisher)
法政哲学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY / 法政哲学
(巻 / Volume)
15
(開始ページ / Start Page)
70
(終了ページ / End Page)
70
(発行年 / Year)
2019-03-30

【図書紹介】

『一八歳で学ぶ哲学的リアル――常識の解剖学』

大橋 基著（ミネルヴァ書房、二〇一七年）

木島　泰三

当学会員諸氏には周知かもしれないが、著者はたぐい稀な気配りの人、人間観察と人間理解の達人であり、その著者の永年の授業経験を注ぎ込んだ哲学・倫理学の入門書が本書である。

全体は五部一五章構成で、アイデンティティ、日本文化、善悪の基準（第Ⅰ部）、ファッション、恋愛と家族、不倫と虚言（第Ⅱ部）、孤独死、出生前診断、再生医療（第Ⅲ部）、正義論、管理社会、テロリズム（第Ⅳ部）、環境倫理と動物倫理、世代間倫理、実存主義と討議倫理を中心とした人間論（第Ⅴ部）、といった主題が取り上げられる。

各章の冒頭には、深夜アニメ、マンガ、ラノベから『マディソン郡の橋』、ゴダールの映画、報道写真家ケビン・カーターの伝記まで、創作やノンフィクションよりの抜粋が掲げられ、続いてそれらを題材に問題提起がなされる（例えばアニメ『PSYCHO-PASS』を管理社会に対する市民の感受性との関連で五ページにわたり論じ、過大評価への配慮から『一九八四』、『審判』、『ダーティ・ハリー』といった先行作品も参照するなど、作品の哲学的考察も歯ごたえがある）。この構成には入門者の興味を惹きつける効果だけでなく、哲学的思索の幅広さと実践性をすべての読み手に気づかせるという、大きな意味があるだろう。

本書のこの間口の広さは、古典および現代の哲学・倫理学に関する、堅実で幅広い知識に支えられた、しかもわかりやすい解説に接続される。哲学史については、アイデンティティ論から個と共同体の問題を経てヘーゲルの弁証法へ、ファッション論から身体論を経てデカルトの二元論へ、等、各学説の現実との関わりを重視しつつ、歴史的背景の紹介も怠らない丁寧な紹介がなされる。現代的問題に関しても、戦場カメラマンの自殺、アイヒマン裁判、脳死問題等、向き合うこと自体勇気の要る主題に、身近な導入と骨太な哲学史的足場の助けで読者の思考を誘い、各章末の課題「自分なりに考える」へ巧みに導いている。

また本書は、ヘーゲル研究者である著者の専門と関連して、ドイツ系の応用倫理を基盤としており、シンガーへの批判運動の詳細な紹介などにもそれが現れている。応用倫理の分野では英語圏の功利主義からの入門書が多いという現状において、これもまた大きな意義をもつと言えよう。